

授業を聞いて医療者を志望した生徒の感想を多く掲載した⁷⁾。新生児医療関係者で連携して、千葉・岐阜・愛知・静岡などでも NICU 学校プロジェクトは開催している。地元に着している全国の周産期施設の役目の1つになれば、さらなる全国展開も可能と考える。

【おわりに】

〈NICU 命の授業〉は、未来の父母に周産期・小児医療の認知、未来の医療者の志望、学校関係者と相互理解と連携、地域の医療応援の増加などの契機になりうる。

小児の成長や家族を見守る小児保健に関わる支援者ならばそれぞれの視点で「いのちの授業」が出来ると考え、〈未来への種まき〉として今後ともそれぞれに考えていきたい。

【文献】

- 1) 豊島勝昭：病と共に生きる子どもたちと家族に向き合う 指定発言 NICU（新生児集中治療室）で病と共に生きる子ども達と家族に向き合う. 臨床死生学 2009；13：23-27
- 2) 豊島勝昭：新生児医療の最前線 神奈川県職員提案事業「新生児医療の崩壊の阻止をめざした短期有給研修医制度」の創設. Neonatal Care 2009；22：317-322
- 3) 豊島勝昭：こども医療センター NICU の現状と未来を考える. こども医療センター医学誌 2013；42：67-71
- 4) 豊島勝昭, 橋村哲生, 友滝清一, 他：神奈川県における「NICU のいのちの授業」の活動報告. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2016；52：601
- 5) 菊地真実：赤ちゃんのいのちを通して「生きる意味」を考える NICU 学校プロジェクト「いのちの授業」5年間の活動. 日本臨床死生学会プログラム・抄録集 2013；19回：71
- 6) 豊島勝昭：【新生児研修再考—新生児科医を増やすための取り組み—】全国各地の101名のNICU研修支援から新生児科医育成の今後を考える. 日本新生児科医学会雑誌 2022；34：145-148
- 7) 豊島勝昭：命の授業を受けた学生たちの進路. NICU 命の授業：小さな命を守る最前線の現場から 2020；赤ちゃん和妈妈社（東京）：pp.101-132
- 8) 田上幸治, 豊島勝昭, 竹村 昭：医師を目指す高校生のための病院体験. こども医療センター医学誌 2015；44：3-5

いのちの教育～手作り教材を中心に～

川邊恵美子（はな助産院）

この度 2022 年 6 月 25 日の第 69 回日本小児保健協会学術集会第 2 日目におきまして、私が長年従事してきました「いのちの教育」について、シンポジストとしてお話をさせていただくという有難い機会を得ました。

そこで、当日の説明内容につきまして以下の通り説明します。

1. 「いのちの教育」を始めたきっかけ

「いのちの教育」を始めたきっかけは、2003 年に保健センターより思春期セミナーの依頼を受けたことです。その対象は、小学 2 年生で生活科「大きくなった私たち」（現在は「自分はっけん」）の単元でした。

助産学生の時、性教育をしたいという仲間がいて、すごいなと思っていました。自分自身は、子どもの成長と共に性教育に関わっていけるといいなと思っていたところ、まだ自分の子どもが 2 歳であり、小学校 2 年生の児童にどのように伝えたらいいのか 3 か月ほど模索を続けました。

2. 子どもたちへの伝達方法

学校の生活科の「自分はっけん」では、家族へのインタビューなどを通じて生まれてから今までの成長やできるようになったことを、子どもたちが自分でまとめて発表をするような授業をしています。

その授業の中で、助産師として生まれる前の話・生まれる時のこと・生まれてからのことを伝えています。専門用語は避け、言葉だけでは伝わりにくいことは感覚的な教材を工夫し、「体験」を中心として指導案を考えました。

3. 大切にしていること

まず、私が大切にしていることは、子どもたちと呼吸を合わせることです。先生からのご紹介の後、そわそわしていたり他のことが気になったりする子どもの目線を、まず、こちらに向けてもらってから話し始めるようにしています。一方的な話にならないように気を付けながら発問して、自分で考えられるように間を置き、こころに響くようにゆっくりと語りかけるようにしていきます。

そして、自分の経験や体験を自分の言葉で子どもた



図5 胎児人形モモちゃん

ちのところに語りかけるよう心がけています。そうすることによって、最後にはその場の空間の雰囲気があたたかくなり、みんなが一つになれたように感じます。

4. 今回のシンポジウムにおける、具体的説明内容

今回のシンポジウムでは、「いのちの教育」で使っている教材のご紹介、授業体験の様子、子どもたちからの意見や感想などを、私の助産師経験からのメッセージも添えてお伝えしました。

それでは、当日の内容を具体的に説明します。

(1) 「初めての授業の取り組み」について

前述のとおり2003年に保健センターから「思春期セミナー」の講師を依頼されてから、私の「いのちの教育」への取り組みが次のように始まりました。

①指導案作り、発表原稿作り：まずは指導案ありきと助産学生の時に指導を受け母親教室の指導案を作ったことを思い出し、ああでもないこうでもないと考えを拵げ、そして本当に伝えたいことを集約していきました。

②教材作り：まだ性教育が広がってない中で、鈴木せいこ助産師のいのちの授業の番組をヒントに、まずは生まれる体験袋を作成しました。産声・胎児心拍音、ペーパーサート（精子・卵子・受精卵）、受精卵の大きさの針で穴を開けた黒画用紙、小学2年生向けの妊婦体験ジャケット、○×クイズのシート等々を作成しました。また、3kgの高研ベビーと2か月から10か月の胎児人形「モモちゃん」（図5）を購入しました。

③小学2年生の授業見学：小学2年の授業で、先生がどのように語りかけているのか、また、子どもたちの反応や理解力、落ち着き具合を見せてもらいました。

④デモンストレーション：主査を含めた保健師さん数人の前で行い、分かりにくいところは指摘を受け修正をかけました。

その後、初めてのセミナー以降、数えきれないほどの「いのちの教育」に関するセミナーを実施してまいりましたが、子どもたちに対して「生まれてから今までの成長は、周りの人の愛情や保護によって大きくなった」ということを伝え続けてきました。

(2) 「初めてのセミナー」から、その後の取り組み内容について

初めてのセミナーの指導案（図6）を基に、今日にいたるまで、小学校や中学校や高校、専門学校・特別支援学校・児童養護施設・生涯学習センターなどへ出向いて「いのちの教育」のセミナーを行ってきました。その間における私の「いのちの教育」に関する取り組み内容は、次の通りです。

①セミナー講師の「仲間づくり」勉強会

②思春期保健セミナー III（家族計画協会）を愛知県で受講

③先輩や仲間の思春期教室を見学

④とんとん拍子に依頼が増え続けた～年間70校くらいに

⑤我が子が通う小学校に講演依頼を！（ボランティアにて）

⑥現在は、後輩への引継ぎも実施中

(3) 実際の「いのちの教育」の具体的内容について

それでは、「いのちの教育」の授業をピックアップして説明します。

①助産師の仕事がわかる 自己紹介

先生から授業のねらいを説明されたあと、助産師の

展開例 45分講話

時間	ねらい	内容・ポイント	動き	教材
5分	担任より	・ 本日の目的		
	助産師の仕事がわかる	自己紹介 ・ 助産師の仕事（保健師の仕事）		新生児人形 産声テープ
2分	生まれた頃と今とを比べてみる	生まれたばかりの赤ちゃん Q 生まれたときの大きさはどのくらい？ Q 生まれる前は、どこにいた？	㊦ 手で表現してもらう	新生児の写真
5分	小さな卵から成長すること 両親のいのちのもとが必要	いのちの始まりの大きさは？ ・ 母さんとお父さんから命を半分 ・ いのちのもと＝受精卵（0.1 mm）	㊦ 自由に発言 ㊧：上から画用紙を見せて周る	精子・卵子パル 黒画用紙
8分	おなかの中の赤ちゃんの成長がわかる	いのちの成長 Q いのちのもととは、何ヶ月かけて赤ちゃんになるのでしょうか？ 1 か月から 10 か月の胎児の成長を説明	㊦ 自由に発言 ㊨：ポケットの中から次々に胎児人形を出す ㊩ 胎児人形を抱く（代表6人）	胎児人形 胎児心音 風船（子宮） マニティマーク
1分	マニティマーク	妊婦への思いやり		マニティマーク
7分	おなかの中の赤ちゃんの様子がわかる	〇×クイズ！ おなかの赤ちゃんの様子 Q ミルクを飲んでいる Q お母さんの声が聞こえている Q 生まれる日は自分で決める	㊦ 両手で〇×をつくる	胎児胎盤モデル
5分	お母さんと赤ちゃんの共同作業	赤ちゃんが生まれる ・ 赤ちゃんからの合図 ・ 産む力と生まれる力 ・ 産声の意味 ・ 家族の喜び	㊰ 子宮の袋から胎児が出てくる	胎児胎盤モデル 産声テープ
7分	生まれる体験（代表1人）	布の袋の中に入り、上からやさしくさする。 生まれてくる合図をしてもらう みんなが「待ってるよー」と伝える 手や足を使わず、頭でぐいぐいと押し広げて出てくる。 母親役＝生まれてきた子を抱きしめる	代表の子が生まれる体験をする 担任：親役 助産師；陣痛役	生まれる体験袋
3分	本時のまとめ（担任より）	かけがえのないいのち いろいろな人たちに大切にされて大きくなった		

図6 指導案

仕事を一言で説明します（例えば、「赤ちゃんを産む人を助ける仕事をしています。みなさんが生まれてくる時に、みなさんのお母さんを助ける仕事をしています。みなさんはオギャーと生まれた時に助産師さんに会ってるはずですよ。覚えてますか？」と問いながら、産声テープを流し、3kgの胎児人形を抱っこして、『おめでとうございます。元気な赤ちゃんが生まれました

よ』と言って、お母さんにお渡しをする仕事をしています』と物語のように伝えます）。

②生まれた頃と今と比べよう

生まれた時の大きさを伝え、赤ちゃんの写真を見せていきます。目をキラキラしている写真を見て『生まれてきてよかった』と言っているよね。』と言うとうなずいてくれます。赤ちゃんは泣くことが大切、み

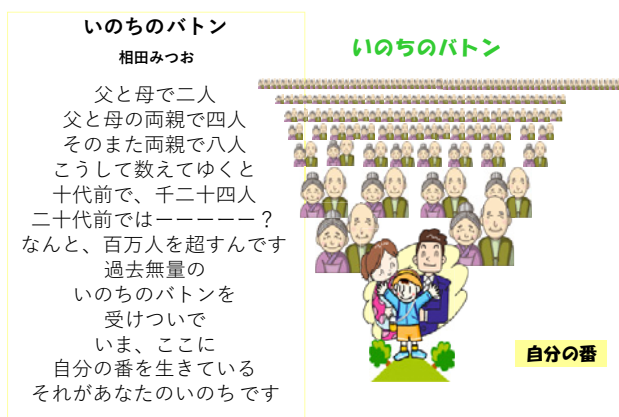


図 7 いのちのバトン

んなもよく泣いたよね！泣いて周りにいる人を呼んで、いろいろな人にお世話をしてもらったことを伝えます。

③いのちのはじまり

「生まれる前はどこにいた？」の質問に「お母さんのおなかの中」と答えてくれます。「自分のいのちは誰からもらったの？」の問いには「お母さんから」と答えますが、「お母さんからだけでいいの？」とさらに問うと「お父さん」と発してくれます。精子・卵子の寿命を伝え「1日と3日のいのちのもとが合体すると何日生きられる？」の問いには、算数の計算では答えられないミラクルが起こって100歳まででも生きられるいのちをもらっていることを伝えます。

④いのちの成長

胎児人形は、子どもたちに感動を与えてくれます。大切に扱いドラえもんのようにポケットに入れ、一つずつ丁寧に説明しながら出していきます。

⑤〇×クイズ

とても盛り上がります。じっと座っていたのがほぐれ今まで集中していたのが緩みます。

5. 授業内容のアレンジと、私が心がけていること

[学校・学年によって異なる授業内容]

実際の授業では、学校の先生との事前打ち合わせや要望から、学校や学年によって説明内容や方法も異なりますが、いろいろなアレンジを施しながら授業を行っています。

授業形式としては、45分の中で講話のみ、講話+体験。1クラスのみ、学年で5クラス合同。学校によっては、2年生でのいのちの授業をしたあと5年生でも思春期の授業をする機会をいただき、継続して関わら

せていただいています。

授業に関わるのは、担任、養護教諭、時には校長先生の体験時の協力もあります。また、学区担当の保健師さん、地域の民生委員・児童委員、保護者の方々など、子どもたちへの愛情いっぱい協力を得ています。

体験も要望に応じ、いろいろ取り入れてます。妊婦体験、生まれる体験、抱っこ体験、お世話体験、沐浴体験、乳児ふれあい体験、お産劇など。

学年に応じても試行錯誤しています。小学2年生はファンタジーの世界へ引き込むように分かりやすく説明していきます。小学4年生以降は思春期のころと体の成長も取り入れます。小学5年生以降は理科の「人の誕生」との関連を図りながら、パワーポイントを使って視覚に訴えながら、生物学的な理解を深めていくようにしています。そして、助産師からのメッセージ「命のバトン」(図7)、「これからの自分」として、最後に「僕が生まれた時のこと」のBGMを流し、妊娠から出産、そして、小学生までの成長の写真のスライドショーをします。

[私が心がけていること]

①まずは、子どもたちと気持ちが一つになって目線が合ってから、話を進めていくようにしています。

②一方的な語りかけだけでは子どもたちの集中力が切れてしまいます(子どもたちの視線を見ていれば分かります)。教材(音や人形や写真)を使ったり、表現を工夫したり、話を切り替えながらと、あの手この手を使いながら、興味を持ち続けるよう努力をしています。

③せつかくの授業が無駄にならないために、終わる前に余韻に浸ってもらうよう「間」を持つようにしていますが、チャイムが鳴る前までに「間」を作らないと集中力が切れてしまいますので時間の管理も重要になってきます。

④いろいろな家族背景があるので打ち合わせ時に確認し、発する言葉は、反応をみながら慎重に扱っています。

6. 子どもたちや、先生方からの感想

「いのちの教育」の授業を行いますと、後日、子どもたちや先生方から授業を受けた感想を手紙でいただくことがあります。これを読むことによって、次の授業へ活かしたり、私のモチベーションアップへつなげたりしていますので、参考までにその手紙の一部を披

露します。

①小学2年生の感想

「へそのお・たいばんなんてしりませんでした。

さいしょはあんなに小さかったのに、あんなに大きくなっていくんですね。

さいしょはしきゅうにはいっているんですね。

ぼくはいのちをすごきたいせつで、びょうきなどにかからなくてすごいなとおもいました。

ぼくはすごく先生の話を書いて、うまれてきてよかったとおもいました。」

「…わたしは、ままのえいようをもらっているんだなあとわかって、うれしかったです。前からずっとしりたかったから、うれしかったです。

わたしも、ちいさなたまごから、どんどんそだったのかなと思いました。」

②養護教諭より

「講義のみとなつたので、子どもたち（小学2年生）はどんな感想を得られたのか私自身も心配でしたが、先生のお話がこれまで気になっていた自分の誕生の秘密を解き明かしてくれたようで、とても興味深く、そして、真剣に命の誕生について向き合った様子が、彼らの様子や感想から見受けられました。

体験活動がない分、生命誕生の不思議さを深く知ることができ、それを自分のことと感ずることができたことに驚きました。」

③小学4年生の感想

「私は、知らない先祖や祖父、祖母たくさんの人たちがいて、今、私が存在しているのだと思うと感動しました。私は、たくさんの人からたくさん愛をもらっているのだと思いました。」

④小学6年生の感想

「今まで親にむかついてばっかだったけど、感謝す

ることも大切だなと思った。今日、お母さんとお父さんにありがとうって言おうかなと思った。」

⑤中学1年生の感想

「セミナーの後、母子手帳を見たら記録がたくさん残っており、愛されているなと思いました。」

以上の通り、受け止め方はさまざまですが、少しでも「生まれてきて良かった」と思ったり、命の誕生の神秘について考えたり、親からの愛情を感じて親に対する感謝の気持ちを新たに抱いたりする感想を読みますと、「いのちの教育」の授業をしてきて良かったと、みなさんからの手紙を拝見するたびに思っています。

7. 最後に

この「いのちの教育」を受けて、今は感じたことをうまく言葉に表せなくても、いつかどこかで思い出し、子どもたちの成長につながってくれたらと願っています。

「いのちの教育」を続けてきて、愛情を持って子どもたちと同じ時間と温かな空間を共に過ごす、その場所が子宮のような暖かい覆いで守られて、安心できる場所と感じられてきます。ある保育園の園長さんによると、愛着を形成するには、自分自身が穏やかで平静な心持ちでいて、目の前の子どもたちのことを「大好きだよ」と思っていることが大切と伺いました。それを念頭に、頭だけでなくこころに働きかけることばを心がけ愛を運ぶ存在でありたいと思っています。

本シンポジウム座長：

仁尾かおり（大阪公立大学大学院看護学研究科看護学専攻）

淀谷典子（三重大学医学部附属病院 小児・AYAがんトータルケアセンター）